

## 口は健康のもと Vol.182

### 芸能人は歯が命 高齢者も歯が命

人生50年から100年時代に移行するといわれています。センテナリアン（百寿者）の研究から、慢性炎症が健康寿命を短くし、歯周病に起因する軽微な慢性炎症が心筋梗塞のリスクを高めると報告されています。

芸能界で活躍した往年の歌手、天地真理、沢田研二および西城秀樹さん達は糖尿病、肥満あるいは脳梗塞に罹患しています。一方、郷ひろみさんは還暦を過ぎて現役バリバリで活躍しています。中年以降の健康には生活習慣が大きく関与します。儒学者であり健康オタクでもあった貝原益軒は養生訓の中で「よき事あしき事、皆習いよりおこる」と述べ、生活習慣の重要性を400年以上前に指摘しています。慧眼です。

う蝕や歯周病で歯を失い、インプラントや入れ歯を入れても、歯を失った原因に対処しないと疾患の再発や悪化を繰り返します。食べ物を咀嚼する能力が低下すれば、嚥下機能も低下して誤嚥性肺炎を起こすリスクが高まります。

高齢者の歯科医療に求められることは、口腔の健康（健口）を維持することで健康寿命の延伸に貢献することです。これを達成するためには、医療者側と患者さんによる継続的な協力と努力が必要です。



奥羽大学歯学部附属病院

総合歯科 教授 高橋 慶壮